

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 - II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 - III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 - IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 - V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】																														
2 実施対象者	宮城県南郷高等学校 全校生徒 計157名 1学年49名 2学年53名 3学年55名																														
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育, 英語) ② 行事名 (LHR『なんすた』, スポーツ大会) ③ その他 (2学年修学旅行, 1学年被災地復興支援) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()																														
4 目標 (ねらい)	スポーツを通して, 希望を持ち挑戦する心を養い, 地域や社会に貢献する力を育む。 ◆オリンピック・パラリンピックを題材に, 生徒どうしの教え合いや体験, アスリートからの学びを通して, 努力や挑戦する大切さ, フェアプレイ精神や思いやり, ボランティア精神, 多様性を尊重する態度等を育ませる。 ◆被災地支援や地域貢献の一環として, 地域の小・中学生や高齢者, 障害者とスポーツ交流を行う。修学旅行先で, 外国人観光客に学んだことを発信したり, 2020 東京に期待することを聞き取りしたりして, 共生社会や社会貢献について考える機会をつくる。																														
5 取組内容	基本として全校生徒が一堂に集う特別活動『なんすた』という, 主にオリンピック・パラリンピックを通じた学びの時間を企画した。『なんすた』は, 本校の実態を踏まえた道徳的な活動の時間である。そこでは, 年間を通して異なるテーマにおいても, 一つひとつをつなげ, 道徳的な意味を持たせた活動を展開した。表のとおり, 学校行事や教科学習とつなげ, 理解を深めさせた。 <table><tr><th></th><th>特別活動 (なんすた)</th><th>学校行事・教科・その他</th></tr><tr><td>4 月</td><td></td><td>障害者スポーツイベント参加 (仙台市障害者スポーツ協会, パラスポ)</td></tr><tr><td>5 月</td><td>第1回 認め合う (エゴグラム活用)</td><td></td></tr><tr><td>6 月</td><td>第2回 ポッチャ対戦 (学年対抗)</td><td>保健体育科: ポッチャ (パラスポーツ)</td></tr><tr><td>7 月</td><td>第3回 スポーツ大会前日調整練習 ルールを守る, 卓越・尊敬・友情</td><td></td></tr><tr><td>8 月</td><td>第4回 おもてなし体験学習 ボランティア精神 進路, 日常の言動・行動 役に立たせられることを考える機会</td><td>スポーツ大会 (ポッチャを採用)</td></tr><tr><td>10 月</td><td>第5回 文化祭に向けて</td><td>文化祭</td></tr><tr><td>11 月</td><td>第6回 パラリンピックについて考える</td><td>保健体育科: 行事 マラソン大会 体育理論 スポーツの価値</td></tr><tr><td>12 月</td><td>第7回 アスリート (パラリンピアン)</td><td>被災地支援 (1学年) 修学旅行 (2学年, 京都)</td></tr><tr><td>1 月</td><td>第8回 まとめ</td><td></td></tr></table>		特別活動 (なんすた)	学校行事・教科・その他	4 月		障害者スポーツイベント参加 (仙台市障害者スポーツ協会, パラスポ)	5 月	第1回 認め合う (エゴグラム活用)		6 月	第2回 ポッチャ対戦 (学年対抗)	保健体育科: ポッチャ (パラスポーツ)	7 月	第3回 スポーツ大会前日調整練習 ルールを守る, 卓越・尊敬・友情		8 月	第4回 おもてなし体験学習 ボランティア精神 進路, 日常の言動・行動 役に立たせられることを考える機会	スポーツ大会 (ポッチャを採用)	10 月	第5回 文化祭に向けて	文化祭	11 月	第6回 パラリンピックについて考える	保健体育科: 行事 マラソン大会 体育理論 スポーツの価値	12 月	第7回 アスリート (パラリンピアン)	被災地支援 (1学年) 修学旅行 (2学年, 京都)	1 月	第8回 まとめ	
	特別活動 (なんすた)	学校行事・教科・その他																													
4 月		障害者スポーツイベント参加 (仙台市障害者スポーツ協会, パラスポ)																													
5 月	第1回 認め合う (エゴグラム活用)																														
6 月	第2回 ポッチャ対戦 (学年対抗)	保健体育科: ポッチャ (パラスポーツ)																													
7 月	第3回 スポーツ大会前日調整練習 ルールを守る, 卓越・尊敬・友情																														
8 月	第4回 おもてなし体験学習 ボランティア精神 進路, 日常の言動・行動 役に立たせられることを考える機会	スポーツ大会 (ポッチャを採用)																													
10 月	第5回 文化祭に向けて	文化祭																													
11 月	第6回 パラリンピックについて考える	保健体育科: 行事 マラソン大会 体育理論 スポーツの価値																													
12 月	第7回 アスリート (パラリンピアン)	被災地支援 (1学年) 修学旅行 (2学年, 京都)																													
1 月	第8回 まとめ																														

(1) 全校生徒でボッチャ

6月体育授業、7月『なんすた』、そしてスポーツ大会につなげた取組である。第2回『なんすた』は、体育委員の生徒が司会進行を務めた。導入で教員から本時の趣旨やねらいを伝え、それ以降は生徒から活動内容や注意点等について、全校生徒に伝えるという進め方にした。昼休みの時間等に何度も会合を設け、ねらいや活動内容を共有していった。生徒が自分たちで企画運営している実感が持てるように、そして自主的・主体的になるような指導を心掛けた。

また、生徒の様々な価値が認められるように、多様な価値を認めることができる場面を意識してつくったのが、第2回のボッチャ対戦であった。自分と異なるものの見方や考え方を受け入れることを学び、思いやりの心や多様性を尊重する態度を醸成するねらいがあった。



スポーツ大会では、種目の一つに採用し、ボッチャを選択したクラス代表生徒同士で対戦した。

(2) おもてなし体験（8月23日）

講師 Global Manner Springs 代表 江上いずみ氏

日本人として必要なグローバルマナーやソーシャルスキルを学び、相手の文化や習慣を尊重しつつ臨機応変な対応ができる判断力やおもてなし、ボランティアの素養を身につけることをねらいとした。文化祭での来校者との接し方、地域の方や他校教職員を受け入れる際のおもてなし、進路につなげた取組であった。

(3) パラリンピック講演会

①事前学習（11月22日）講師について知る

②12月4日 講師 パラリンピアン走高跳 鈴木徹氏

「パラリンピック5大会連続出場のレジェンドアスリート鈴木徹氏といっしょに考え学ぼう」

③事後学習（12月21日全校集会）

パラリンピックの価値である努力や挑戦することの大切さを学び、一歩踏み出すことを後押しすること、東京2020大会は世界から何が求められているのか、宮城県の高校生として何ができるのか考え、視野を広げて日常生活につなげられるような機会とすることをねらいとした。

講演会を迎えるにあたって、講師と何度もやり取りをして、当日の進め方や質問内容を確認していった。事前学習と当日は生徒（有志）による運営で進めるため、数日にわたる打ち合わせ



を重ねていった。当日は事前に全校生徒から集めた質問をいくつか回答する形で進めていった。また、全校生徒参加型のクイズ（宮城で楽しみにしていた食べ物、現役目標年齢、義足の重さ、2m02の高さ当て）やその回答については義足の重さを実際に体重計で計ってみたりパラリンピアン競技力の高さに実感を伴わせるため実際の高さのバーを設置したりするなど、学習意欲が持てるよう構成した。

（４）被災地復興支援（１学年）１２月１４日

本校より２０キロほど離れた石巻の被災地住宅内にある公民館を会場に、農産物販売や餅つき・振るまい、クリスマスリース作り体験、ポッチャ体験の各班に分かれ交流した。

参加した生徒は、足腰に負担がかからないように椅子を設置したり、ルールをわかりやすく伝えようとしたり、様々工夫していた。そして、地域の方と交流することを通して、お年寄りから子どもまで参加しやすい環境作りについて今後の課題を見つけ出した。

参加者からは「テレビで観て知っていたけど、実際にやってみて面白かった」、「座ってもできるスポーツだから誰でも挑戦できるね」といった感想が寄せられた。足腰に負担がかからないように椅子を使用したことについても触れられ、工夫したことが反映された感想といえる。



（５）修学旅行中の外国人インタビュー（２学年）１２月１５日

京都自主研修日を活用し、外国人に２０２０東京オリンピック・パラリンピックについて質問した。事前にＬＨＲで誰がどのような質問をするのか練習をして当日を迎えた。外国人から見て２０２０東京大会に対して何を期待しているのか、世界は何を求めているのかを知る機会とした。

What do you think about 2020 Tokyo Olympic and Paralympics ?



６ 主な成果

１月１７日に行われた『なんすた』の振り返りでは、有志生徒が、「あきらめず努力をすればどこまでも成長できるのでは」、「勉強や部活動など、あきらめず努力をしたい」、「努力は必ず報われるので、何事にも積極的に取り組んでみたい」といった感想でまとめた。１年間を通して、生徒による自主運営や自分たちで行事をつくっていると実感させるような指導を心掛けてきた。

成果としては、全校生徒によるアンケートの結果から、生徒主体の運営に対する興味、企画運営への意欲が向上したことがあげられ

	<p>る。これらの取組が向上させた要因の一つといえる。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○『なんすた』では、生徒主体の運営を心掛けた。</p> <p>○カリキュラムマネジメントの視点と学習時期 特別活動『なんすた』と教科学習、学校行事を相互に関連させて、教科横断的な学びとした。</p> <p>○パラリンピック講演会では、一般者向けの広報誌(右写真)を作成し、一般の方々の参加をインターネットによる申込サイトの活用により広く周知した。</p> <p>○パラリンピック講演会では、事前に有志生徒が全校生徒から集めた質問を整理し、それを当日に講師に質問する形とした。生徒による自主運営とし、生徒による行事づくりに努めた。</p> <p>○学習したことを学校外で活かす場を設けた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○これまでの教育活動をオリパラ教育という角度から見つめると、オリパラ教育といえる活動は結果として実践されていた。今後は、意図的・計画的・組織的に他の教育活動とリンクさせながら、タイミングやどのような教材、アプローチが生徒の興味関心を高め理解度を深め広がっていくのか、研究していく必要がある。</p> <p>○復興五輪・パラリンピックを果たす2020東京大会となるためには、東日本大震災の被災地にいる高校生としてまた宮城県として何をすべきなのか、生徒とともに考え発信する必要がある。それがオリパラ教育の一つになると考える。</p> <p>○パラリンピック講演会では、地域に参加を呼びかけたが、一般の方々の参加者はなかった。その理由は、周知方法や時期、場所、テーマ、地域特性等、何なのかを考える必要がある。</p> <p>○複数校や地域との協同開催、協働的学習によって得られる成果も大きいと考えられる。地域貢献や地域協働の在り方をオリパラ教育という視点からも見つめてみたい。</p> <p>○一過性の取り組みではなく、担当者が変わっても、2020開催後にも継続する必要がある学習活動については継続・発展させて取り組みたい。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>生徒が自ら企画を立てて運営することを通して学び合う場をつくっていききたい。スポーツやオリンピック・パラリンピックを題材にしたムーブメントが生徒から提案されて、自分たちで課題に取り組めるような学びの場を設けることである。これからの生活や社会で答えのない課題に直面したとき、自分の考えをもち、そして他者と協働してよりよいものを創出することにつながるからである。</p>

